

新刊図書の紹介

「川の風景を考える」Ⅱ 景観設計のためのガイド（水門、樋門）

近年の川づくりにおいては、自然豊かな川づくりが重視されるとともに、河川構造物に対しても景観の配慮が益々求められるようになってきました。

本書は、河川景観の観点から護岸づくりの考え方をまとめた「景観設計ガイドライン（護岸）」の続編にあたるものです。今回は河川景観の中に添景的に存在する水門、樋門を対象に、これらの施設の設計に携わる現場の設計担当者が、自ら実際に景観に配慮した設計を行う際の技術的な参考書として、すぐに役立つことを意図して景観設計の考え方と方法について記述しています。おそらく水門、樋門の景観設計のための技術的な参考書としては、本書が初めてではないかと考えられます。

本書の内容は原則編、基本項目編、ディテールデザイン編および設計演習編から成ります。原則編では、景観としての水門、樋門の見え方の特徴、その役割、意味および景観設計上の留意点を景観設計としての原則と伝統的構造物に見られるデザイン原則の2つの観点から整理しています。基本項目編では、翼壁、胸壁、門柱、門扉などの基本構成要素と、管理橋・管理用階段などの関連構成要素について景観設計としての基本的な考え方を取りまとめています。またディテールデザイン編では、門柱、上屋、フェンス類について、できるだけ多くのデザイン手法を提示するとともに、そのデザインの基本的な考え方をとりまとめています。最後に設計演習編において、本書をどのように適用するかをわかりやすく示すとともに、景観設計を行うことによって実際どのような水門、樋門が生み出されるのかを例示しています。



平成8年4月発行

編集：（財）リバーフロント整備センター

発行：山海堂

体裁：A5版 131頁

定価：2,678円（税込み）

『平成5年度 河川水辺の国勢調査年鑑』 CD・ROM版 平成8年3月発行

河川水辺の国勢調査年鑑は、河川水辺の国勢調査として実施した生物調査（ダムを区間を除く）の成果を一般の人々にも公表し、河川環境の基礎的な資料として活用されるとともに、広く意見の交換・交流が行われ、適切な河川環境の保全や管理等に貢献し、河川環境の研究に寄与するよう、平成2年度よりとりまとめられているものです。

平成5年度の生物調査結果をとりまとめた本書は、「魚介類調査、底生動物調査編」、「植物調査編」、「鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査編」の全3編です。また、近年のOA機器の普及と機能の優位性を考慮し、情報検索や情報活用が簡易にできるようCD-ROM版といたしました。



監修 建設省河川局河川環境課

編集 （財）リバーフロント整備センター

発行 （株）山海堂

体裁 B5判、冊子 約80頁、CD-ROM 1枚

定価 19,800円（税込み：各編とも）